

とから、今後緊急かつ的確に高齢社会に対応することが重要と考えられる。

マスタープランの性格

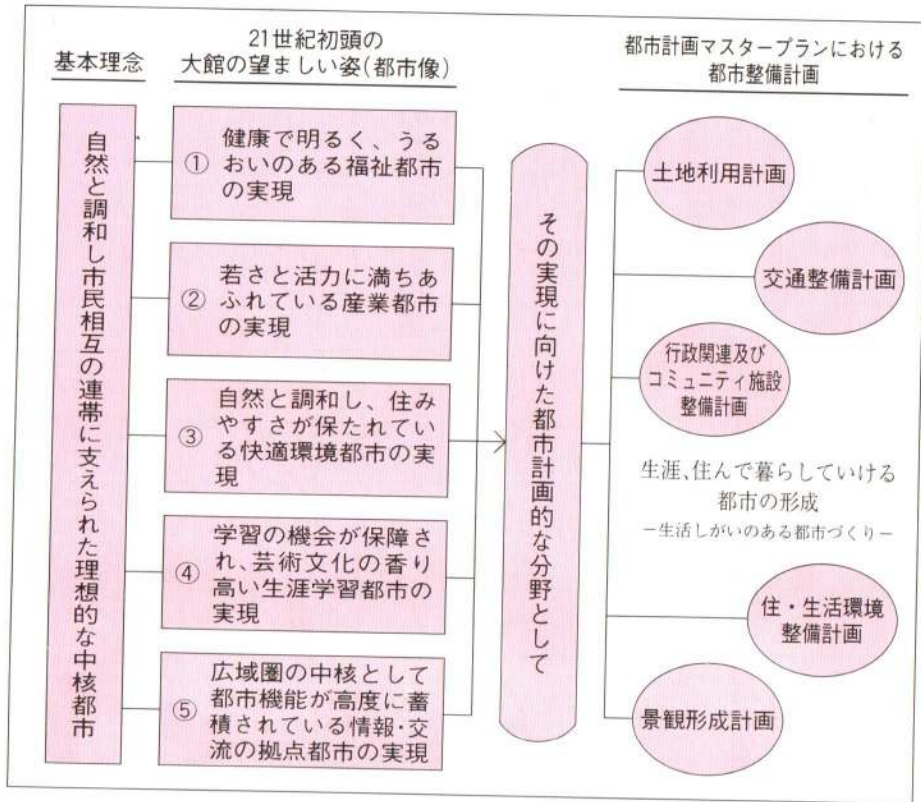
基本原則

- ① 市民一人ひとりが豊かな気持ちで毎日を生活し、生きがいを持って働くこと。
- ② 過去の蓄積を尊重し、活用しながら新しい時代の要請に応えていくこと。
- ③ 市民、行政及び地域経済が自立性・責任を持つための手段であること。
- ④ 目的達成に向け、様々な難関・障害を打開していくこと。

マスタープランの役割

基幹産業の活力低下が顕著で、特に常住人口の減少、急速な高齢化の進行が明らかで今日において、将来に向けて仮に何も策を講じないのであれば、都市活力の低下に一層拍車がかかることすら予想される。そこで、まちづくりに関する段階的・継続的な「プロジェクト・インパクト（整備という形の衝撃）」を与え、上昇曲線を生み出すことが重要である。『大館市都市計画マスタープラン』は、こうした都市経営的な発想に基づく「プロジェクト・インパクト」を整理し、結果である未来の姿を明らかにするものである。

大館市都市計画マスタープラン



目指す生活像

大館が北東北の、あるいは拠点都市の中核都市として、適正規模の市民を確保し、また、市民生活におけるそれぞれの価値観を重要とした、都市そのものの個性化を追求した都市づくりに基づき、

新たに

生涯、住んで暮らしていける

都市の形成

生活しがいのある都市づくり

というテーマ(主題)に従い、都市づくりを推進していく。

目指す都市構造

市域全体

『紫陽花型都市構造』の実現



市を構成する十の地区がそれぞれの個性を打ち出し、磨いていくことを喚起すると同時に、地区同士が相互の個性を意識、尊重し、市域全体が

と調和するようなコンパクトな形をつくり上げていく。

市域外との関係

通過点から

中核的な立寄点への発展

『相互補完』の関係を築き、それを継続していくことで、一つひとつが花でありながらも、それらが集まることにより団花としてより大きく、より美しくなる紫陽花のように、地区毎の多様性とその物理的・精神的な連携による都市構造(紫陽花型都市構造)を将来の目標とし、その実現を目指す。

中心市街地

コンパクトなセンターの形成

『紫陽花型都市構造』の中で、大館地区の既存の中心市街地は、団花の一構成要素であるばかりでなく、他地区との連携の中でセンター的な場所として機能させていく。ただし、無秩序な外延化(拡大)は許容せず、周辺の自然環境

後生活あるいは産業面での「立寄点」となることを目指す。特に、周辺市町村と構成する米代川流域地方拠点都市域との関係においては、市内における都市構造と同様の発想により、各都市相互の補完関係を築き上げていくと同時に、特にその中核的なセンターとなることを目指す。